



本書は、住宅の下にトンネルを掘ってもいいお構いなしという、人権無視も甚だしい大深度法及び大深度トンネルの持つ問題点を、初めてえぐり出したものとして高く評価される。それと同時に60年に及ぶ東京外環道の建設反対運動の貴重な記録でもあり、また過

## 住宅の真下に 巨大トンネルはならない!

丸山重威著 あけび書房刊

度に発達した近代文明への根源的な問いかけでもある。そして本書は、この大深度トンネルを下支えする大深度法の問題点を、

本書によって大深度トンネルの掘削が、地下水の枯渇や陥没、地盤沈下等を招く事態が次々と明らかになれば、また40年以上の財産権は侵害され、また深の地下深くのことだから大丈夫、シールド工法で行うから何の影響もな

いとうそぶいてきた「安全」の欺瞞性が理を尽くして整然と述べられている。私が関わっているリニア新幹線の都市部では大

2018年5月、世田谷区野川に発生した酸欠気泡は、酸欠ガスのみならず、大深度トンネルの持つ危険性を市民に可視化させることになった

が、その意味で言えば本書の刊行は絶妙のタイミングであった。

川村晃生 慶応義塾大学  
学名譽教授

